

皮膚1：角化症、母斑・母斑症

日時：9月16日（水） 2時限

担当者：宮野 恭平(皮膚科)

内容：

症例を提示し、臨床実地的な視点で問題を解決する能力を身につける。

1. 【★D-3-4)-(6) 乾癬と角化症】角化症
 - 1) 角化症を理解するための基礎
 - 2) 乾癬
 - 3) 扁平苔癬
 - 4) 魚鱗癬
 - 5) Darier 病
 - 6) 汗孔角化症
 - 7) 黒色表皮腫
2. 【★D-3-4)-(8)-① 母斑・腫瘍性疾患・腫瘍】母斑・母斑症
 - 1) 母斑・母斑症を理解するための基礎
 - 2) 類器官母斑（脂腺母斑）
 - 3) 色素性母斑
 - 4) 太田母斑
 - 5) 毛細血管奇形（単純性血管腫）
 - 6) 乳児血管腫（イチゴ状血管腫）
 - 7) Kasabach-Merritt 症候群
 - 8) 神経線維腫症1型
 - 9) 結節性硬化症
 - 10) Sturge-Weber 症候群

ポイント：

1. 角化の機序と、角化の異常により生ずる疾患を説明できる。
2. 母斑・母斑症の臨床を、そのなりたち（組織分化異常並びに形態形成異常）から説明できる。

キーワード：

角化の異常、遺伝性角化症、炎症性角化症、黒色表皮腫、神経冠起源細胞系母斑、間葉組織系母斑、脈管系母斑、神経皮膚症候群

教科書：

- ◆ あたらしい皮膚科学 第3版（中山書店）

準備：

【予習】あたらしい皮膚科学 第3版 15章（P268～301）、20章（P376～405）の該当する箇所をよく読んでおくこと。40分程度の予習時間を要するものと思われる。【復習】予習で確認していなかった内容を中心に、講義資料および教科書で復習すること。20-30分程度の時間を要するものと思われる。

皮膚2：紅斑・紫斑病、水疱症・膿疱症、肉芽腫症、腫瘍

日時：9月24日（木） 5時限

担当者：中村 晃一郎(皮膚科)

内容：

症例を提示し、臨床実地的な視点で問題を解決する能力を身につける。

下記の皮膚疾患の病因・病態、および治療について説明できる。

1. 【★D-3-4)-(2)② 蕁麻疹、紅斑症、紅皮症と皮膚搔痒症】【★D-3-4)-(4) 薬疹・薬物障害】
 - 1) 多形滲出性紅斑
 - 2) Stevens-Johnson 症候群、中毒性表皮壊死症
 - 3) Sweet 病

- 4) 結節性紅斑、ベーチェット病
2. 【★D-3-4)-(3)】紫斑・血流障害と血管炎
 - 1) IgA 血管炎
3. 【★D-3-4)-(5)】水疱症と膿疱症
 - 1) 天疱瘡(尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡)
 - 2) 水疱性類天疱瘡
 - 3) 膿疱性乾癬
 - 4) 掌蹠膿疱症
4. 肉芽腫性疾患
 - 1) サルコイドーシス
 - 2) 【★D-3-4)-(7)③】真性皮膚結核
5. 【★D-3-4)-(8)-②④⑤⑥】腫瘍
 - 1) 上皮性腫瘍・毛包系腫瘍・脂腺系腫瘍・汗腺系腫瘍・嚢腫
 - 2) 神経冠起源細胞系腫瘍、神経原性腫瘍、間葉系腫瘍

キーワード：

蛍光抗体法、抗デスモグレイン抗体、抗BP180抗体、光線角化症、パジェット病、ポーエン病、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫

教科書：

- ◆ あたらしい皮膚科学 第3版(中山書店)

参考書：

- ◆ 標準皮膚科学(医学書院)、皮膚科学(金芳堂)など

準備：

【予習】あたらしい皮膚科学 第3版 9章(P139~150)、11章(P163~190)、14章(P237~267)、18章(P344~350)、22章(P444~486)の該当する箇所をよく読んでおくこと。1時間程度の予習時間を要するものと思われる。【復習】予習で確認していなかった内容を中心に、講義資料および教科書で復習すること。20-30分程度の時間を要するものと思われる。

皮膚3：光線性皮膚疾患、色素異常症、代謝異常、全身と皮膚

日時：9月25日(金) 3時限

担当者：福田 知雄(総セ 皮膚科)

内容：

光線皮膚科学、色素異常、代謝異常、全身と皮膚の諸問題に対し臨床実地的な視点で問題を解決する能力を身につける。

1. 光線性皮膚疾患【★C-4-2)細胞障害・変性と細胞死, ★C-4-3)代謝障害, ★C-4-6)腫瘍】
 - 1) 太陽光線による生理反応と病的異常反応について説明できる。
 - 2) DNA障害と光発癌について説明できる。
 - 3) ポルフィリン症, 色素性乾皮症, 日光蕁麻疹, 多形日光疹, 光線過敏型薬疹について説明できる。
2. 色素異常症
 - 1) 眼皮膚白皮症(先天性白皮症)について説明できる。
 - 2) 尋常性白斑について説明できる。
 - 3) 色素性母斑について説明できる。
3. 骨・結合組織・その他の代謝異常
 - 1) Marfan症候群について説明できる。
 - 2) Ehlers-Danlos症候群について説明できる。
 - 3) 弾性線維性偽性黄色腫について説明できる。
4. 全身と皮膚

- 1) デルマトロームの概念について説明できる。
- 2) 腫瘍随伴性症候群の概念について説明できる。
- 3) 肝・腎・心・呼吸器疾患に伴う皮膚症候を列記することができる。
- 4) 内分泌異常・糖尿病に伴う皮膚症候を列記することができる。

キーワード：

UVA, UVB, 光老化, 光発癌, 色素性乾皮症, ポルフィリン症, Ehlers-Danlos 症候群, 皮膚弛緩症, 弾性線維性仮性黄色腫

教科書：

- ◆ あたらしい皮膚科学 第3版(中山書店)

参考書：

- ◆ 標準皮膚科学(医学書院)など

準備：

【予習】あたらしい皮膚科学 第3版 16章・17章・18章(P302~359)の該当する箇所をよく読んでおくこと。デルマトロームの概念を調べ、内臓、内分泌疾患に伴う代表的な皮膚症候を予習しておくこと。40分程度の予習時間を要するものと思われる。【復習】予習で確認していなかった内容を中心に、講義資料および教科書で復習すること。20-30分程度の時間を要するものと思われる。

皮膚4：皮膚感染症（ウイルス性発疹症を除く）

日時：9月28日（月） 2時限

担当者：常深 祐一郎(皮膚科)

内容：

【★C-3-1)-(4) 細菌・真菌, ★D-3-4)-(7)皮膚感染症】症例を提示し、臨床実地的な視点で問題を解決する能力を身につける。

1. 細菌感染症
 - 1) 蜂窩織炎
 - 2) 壊死性筋膜炎
 - 3) 丹毒
 - 4) 伝染性膿痂疹
 - 5) ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
2. 抗酸菌感染症
 - 1) 結核
 - 2) 非定型抗酸菌症
 - 3) Hansen 病
3. スピロヘータ感染症
 - 1) 梅毒
 - 2) Lyme 病
4. リケッチア感染症
 - 1) ツツガムシ病
5. 真菌感染症
 - 1) 白癬
 - 2) カンジダ症
 - 3) 癬風
 - 4) スポロトリコーシス
6. その他の感染症
 - 1) 疥癬

ポイント：

1. 代表的な皮膚感染症の病因・病態、および治療について説明できる。

2. 皮膚の感染防御機構を説明できる。

キーワード：

細菌感染症、抗酸菌感染症、スピロヘータ感染症、リケッチア感染症、真菌感染症、疥癬、免疫不全状態における感染症

教科書：

◆ あたらしい皮膚科学 第3版(中山書店)

準備：

【予習】あたらしい皮膚科学 第3版 24～28章(P514～572)の該当する箇所をよく読んでおくこと。40分程度の予習時間を要するものと思われる。【復習】予習で確認していなかった内容を中心に、講義資料および教科書で復習すること。20-30分程度の時間を要するものと思われる。

皮膚5：湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹

日時：9月28日(月) 3時限

担当者：常深 祐一郎(皮膚科)

内容：

症例を提示し、臨床実地的な視点で問題を解決する能力を身につける。

1. 【★D-3-4)-(1) 湿疹・皮膚炎】湿疹と接触皮膚炎の関係
2. 【★D-3-4)-(2) 蕁麻疹、紅斑症、紅皮症と皮膚掻痒症】蕁麻疹と接触皮膚炎の発症機序
 - 1) 過敏反応との対応
 - 2) 臨床所見との対応
 - 3) 検査との対応
3. 【★D-3-4)-(1) ②湿疹・皮膚炎】アトピー性皮膚炎の発症機序
 - 1) 臨床との対応
 - 2) 合併症との対応
(Kaposi 水痘様発疹症、伝染性膿痂疹、白内障など)
4. 【★D-3-4)-(1) 湿疹・皮膚炎】その他の湿疹・皮膚炎群の臨床
 - 1) 脂漏性皮膚炎
 - 2) 貨幣状湿疹
 - 3) 自家感作性皮膚炎
 - 4) うっ滞性皮膚炎
5. 【★D-3-2)② 診断と検査の基本】皮膚アレルギー検査の意義
6. 【★D-3-4)-(2)② 蕁麻疹、紅斑症、紅皮症と皮膚掻痒症】紅皮症の原因疾患
7. 【★D-3-4)-(2)③ 蕁麻疹、紅斑症、紅皮症と皮膚掻痒症】痒疹、皮膚そう痒症の臨床
8. ステロイド薬外用療法

ポイント：

1. 蕁麻疹と接触皮膚炎の発症機序を対比し、それぞれ臨床と対応して理解する。
2. アトピー性皮膚炎の発症機序と臨床を対応して理解する。

キーワード：

蕁麻疹、皮内試験、貼布試験、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、Kaposi 水痘様発疹症、脂漏性皮膚炎、紅皮症

教科書：

◆ あたらしい皮膚科学 第3版(中山書店)

参考書：

◆ 標準皮膚科学(医学書院)、皮膚科学(金芳堂)など

準備：

【予習】あたらしい皮膚科学 第3版 7章・8章・9章 (P114~150) の該当する箇所をよく読んでおくこと。40分程度の予習時間を要するものと思われる。【復習】予習で確認していなかった内容を中心に、講義資料および教科書で復習すること。20-30分程度の時間を要するものと思われる。